



平成 29 年 2 月 13 日
国土交通省中部地方整備局
名古屋港湾事務所
三河港湾事務所
港湾物流企画室

JICA 研修員が中部の港を視察（報告）

～名古屋港と三河港の優れた港湾施設を紹介し国際協力に貢献～

中部地方整備局は2月8日～2月9日にJICA（独立行政法人国際協力機構）が実施している「港湾戦略運営」研修で来日している各国研修員を名古屋港及び三河港に迎え、優れた中部の港を紹介しました。

1. 概要

国土交通省では、JICAとの連携による国際協力を積極的に推進しています。本視察は、研修参加者各国の公的機関において港湾運営に係わる部署の方を対象に、研修員の自国での課題を踏まえ、本研修における講義や視察を通じ、自国での戦略的な港湾の計画、運営への導入・応用等を検討するためのものです。主な視察として、名古屋港では日本初の自動化コンテナターミナル、完成自動車の輸入台数及び金額が日本一である三河港においては新車整備センターの視察を行いました。

2. 実施内容等

日 時：平成29年2月8日（水）～平成29年2月9日（木）

場 所：三河港内（2/8）及び名古屋港内（2/9）

行 程：三河港（2/8） 三河港展望、メルセデス・ベンツ日本の新車整備センター視察、三河港ポートインフォメーションセンターにて三河港の概要説明

名古屋港（2/9） 名古屋港湾事務所にて名古屋港の概要説明、飛島ふ頭南側コンテナターミナル視察、集中管理ゲート視察、海上交通センターより名古屋港展望

（※詳細スケジュールは別紙）

視 察 者：以下の各国より研修で来日の方々、14カ国より、計18名

ブラジル、カンボジア、エジプト、エルサルバドル、ガーナ、インドネシア、ケニア、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、南スーダン、スリランカ、東ティモール、チュニジア

3. 研修の様子

別紙 ※研修の状況写真をご希望の場合は対応しますので、お問い合わせください。

4. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、日本海事新聞、港湾空港タイムス、海事プレス、豊橋市政記者会

5. お問い合わせ先

中部地方整備局 港湾空港部

港湾物流企画室長 赤石（あかいし）、課長補佐 澤田（さわだ）

Tel 052-209-6330 Fax 052-203-9739

■研修の様子

1. 研修の参加者、行程、内容

視 察 者：以下の各国より研修で来日の方々、14カ国より、計18名

ブラジル、カンボジア、エジプト、エルサルバドル、ガーナ、インドネシア、ケニア、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、南スーダン、スリランカ、東ティモール、チュニジア

内 容：背後産業の国際競争力を支える名古屋港及び三河港の貨物取り扱い状況、港湾施設等のインフラの整備状況の説明を聞いて頂き、その後、運営状況について関連施設を視察していただいた。各港が重要な物流拠点であること、施設整備の必要性及び効果、また視察した施設における運営の効率性、品質管理についても理解して頂いた。

研修員の方々は、国内で1月17日～2月24日の間に研修を行うこととなっており、研修の修了にあたっては講義や視察内容に基づき、自国への導入・応用等を検討しアクションプランを作成することとなっており、今回の視察もその一助となります。

行 程：

三河港 平成29年2月8日（水）

- 11:00～11:30 【視察】蔵王山（田原市）より三河湾展望
- 12:30～13:10 【概要説明】三河港の概要説明
- 13:30～15:00 【視察】メルセデス・ベンツ日本 新車整備センター ※1
- 15:20～16:00 【視察】カモメリア展望台より三河港を見学
- 16:30～17:00 【表敬訪問】豊橋市（木村副市長）

※1 メルセデス・ベンツ日本の新車整備センターでは、日本に到着した車を整備し、顧客の納車日に合わせて全国の正規ディーラーに出荷します。また、併設のデリバリーコーナーで納車されるマイカーを受け取ることもできます。

名古屋港 平成29年2月9日（木）

- 9:30～10:30 【概要説明】名古屋港の概要説明
- 11:00～12:00 【視察】飛島ふ頭南側コンテナターミナル※2
- 12:15～12:45 【視察】集中管理ゲート ※3
- 14:20～15:00 【視察】海上交通センターより名古屋港を展望

※2 飛島コンテナ埠頭(株)が運営する日本初の自動化コンテナターミナルです。コンテナを無人で搬送する自動搬送台車、ラバータイヤ式ガントリークレーンを導入しています。

※3 集中管理ゲートとは、コンテナターミナルのゲート毎に行っている貨物の確認業務を分担し処理する施設です。集中管理ゲートで情報処理、貨物の確認業務を大部分実施することで各ゲートでの作業が少量化しスムーズとなり、ふ頭内の渋滞が緩和するなど、物流の効率化に寄与している施設です。

2. 視察の様子

研修員の方々は、当研修期間内での発表もあるほか、自国での報告会もあるとのことで、各訪問先で多くの質問が出されました。岸壁の施設延長、水深などの施設規模の他、荷役時の労力や時間など、運営にかかるさまざまな質問があり熱心さが伺えました。

2月8日にはメルセデス・ベンツ日本(株)を訪問し、新車整備センターでの輸入車の整備状況の見学の他、日本における事業展開の経緯説明もあり、港湾に隣接している施設の優位性などの知識を得ることができました。また、夕方には豊橋市を表敬訪問し、豊橋市を含む東三河地域が工業圏というだけでなく農業生産も盛んであること、みなとでは賑わいがあり人々に親しまれていることなど、当地域の魅力について木村副市長にご説明をいただきました。

2月9日の名古屋港においては、飛島コンテナ埠頭(株)の自動化コンテナターミナルを見学し、世界初、日本初の自動化設備の生み出す効率性に大変興味を持っていました。当日は少しですが雪が降り、多くの方は雪が珍しいとのことで、雪の降るコンテナターミナルの景色を嬉しそうに写真に収めていました。

(視察時の様子 (写真))

2月8日 三河港



三河港の説明を聞く研修員



メルセデス・ベンツ日本(株) 見学

中央は、自動車として最初に認定された三輪自動車(復元)



三河港「カメラリア」展望台にて



豊橋市を表敬訪問

前段中央が木村副市長

2月9日 名古屋港



名古屋港の概要説明を聞く研修員



飛島ふ頭南側コンテナターミナルにて

（視察後の感想）

視察後に感想をお聞きしたところ、以下の感想を述べられました。

エジプトからの研修員のモハメッドさんからは、「港湾エリアの利活用を視察した。現在は自分の担当するダミエッタ港は大きくないが、完成自動車輸送のためのRORO船やより多くのコンテナ貨物を取り扱うための施設を将来的に計画・整備したい。」、カンボジアの研修員のペートラさんからは「名古屋港の自動化コンテナターミナルは、自国の担当しているコンテナターミナルと比較すると10分の1ほどの労力で、それ以上の貨物を取り扱っており、その効率性に驚いた。また、今はコンテナターミナルのゲートでトレーラーのコンテナの中身や書類のチェックを行っており渋滞が問題となっているので、集中管理ゲートの施設は大変参考になる。」などの感想がありました。